

第六次男女共同参画基本計画 に向けて

神林龍@武蔵大学経済学部
2025年3月5日

基本構想に対する視座

- 第1部「基本的な方針(たたき台)」
 - 時代認識：第六次計画の位置づけ
 - 根源的規範の想定
 - 基本的力学の想定
- 第2部のうち「政策・方針決定過程への女性の参画拡大(たたき台)」
 - 経済分野
 - 数値目標
 - 公表指標
 - ロールモデル、ネットワーク、マッチング

時代認識：第六次計画の位置づけ (1/2)

(第1部 2 社会情勢の現状、予想される環境変化)

- 均等法40年は目前
 - 均等法第一世代はすでに日本社会の中枢に位置する
 - 第五次計画までの確かな進展
- しかし、
- 現時点(までの達成)をどう評価するかは自明ではない

時代認識：第六次計画の位置づけ (2/2)

(第1部 2 社会情勢の現状、予想される環境変化)

- 何が、想定外だったのか？
 - 人口学的労働市場指標の中長期的動きは織り込み済み
 - 〔個人〕根強い性別役割意識
⇐ 教育への期待
根源的規範をどこに求めるのか？
 - 〔法人≠自然人〕技術進歩の停滞
⇐ 技術導入と親和的な競争圧力
基本的力学をどう想定するのか？

各論：競争につながっているのか？

(第2部 4. 経済分野 (1) 施策の基本的方向)

(A) 数値目標や公表指標は、競争圧力に資する(技術進歩に追いつく)ことを目的とする。

(B) 数値を解釈する環境をあらかじめ整えることを意識する。(解釈の余地をつぶす)

各論：競争につながっているのか？

(第2部 4. 経済分野 (1) 施策の基本的方向)

(A) 数値目標や公表指標の考え方 (1/2)

- 30%の意味再考(市場からの評価は、必ずしも肯定的ではないから)

(解釈①)

経済的価値以外の規範による正当化が必要(?)

「30%は、経済的価値を最大にするための目標ではなく、人間社会たるものが達成すべき最低限の水準である」という考え方は肯定できるか？

各論：競争につながっているのか？

(第2部 4. 経済分野 (1) 施策の基本的方向)

(A) 数値目標や公表指標の考え方 (2/2)

- 30%の意味再考(市場からの評価は、必ずしも肯定的ではないから)

(解釈②)

30%の経済的価値を再考する＝相対化が必要

数値目標は金科玉条か？NO

＝単純な数値目標だけでは誤解を招く。そのほかの側面との「抱き合わせ」で評価しないといけない。

各論：競争につながっているのか？

(第2部 4. 経済分野 (1) 施策の基本的方向)

(B) 解釈環境の整備

- 競争圧力で用いられる情報は、「解釈の余地が残さない」品質を担保する必要がある。
 - 指標作成の安定的中立化
 - 多面的検証の自由化・自動化

施策評価の視点の見直し

- 数値そのものの確認
 - PDCAサイクルの利用（自動的検証）
 - 「第5次男女共同参画基本計画の達成状況」

施策評価の視点の見直し

- 想定したメカニズムの検証
 - (現状認識) 現在の数値目標・公表指標に何らかの経済的メカニズムの裏付けを求めるとしても、その根拠は盤石ではない。
 - 多面的な検証による修正が必要

施策評価の視点の見直し

- 人権にかんする数値目標と、経済的合理性にもとづく数値目標を[まず概念的に]区別すべき
 - 人権にかんする数値目標
 - 経済的合理性の裏付けがある数値目標
- 可能ならば、両者を[現実にも]識別する。